

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000454		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「赤とんぼ」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405番地		
自己評価作成日	平成23年 8月 5日	評価結果市町村受理日	平成23年 9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171000454&SCD=320&PCD=21
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成23年 8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町の中心部に近い住宅街という環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その地域の一人としての意識を持ってもらい、日々の生活の中で生き甲斐をもって楽しく心安らかに生活していただけるような心細やかな支援ができるよう取り組んでいる。
医療法人社団 福寿会としてグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携をとりながら、利用者や家族の希望にそった、個々の利用者に適した総合的なサービスの提供を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体となる医療機関を中心に、各種の介護事業を展開して地域の福祉拠点としての位置づけを確かなものとしている。市への合併はあったが、“地域”としての認識は従来の行政単位である町レベルであり、ホーム(法人)は地域の社会資源としての役割を果たすに至っている。
早い時期から、終末期のケアの重要性を認識した取り組みを行っており、対応困難な医療行為がない限りホームでのケアを継続する方針を持っている。母体が医療機関であることや、適宜家族の意思の確認を行うなど、細やかな対応に対して家族の安心感や信頼は大きい。
症状の重度化や車いす利用者の増加により、機械浴槽を供えた別棟を増築し、利用者の住みやすい環境づくりに積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、福祉・介護の重要な役割を果たし、地域社会に貢献するという意識を持ち、利用者のそれまでの人間関係や地域とのつながりを大切にし、穏やかに過ごしていただけるよう事業所理念を作り、実践している。	基本となる法人の理念に、「見守る」、「見逃さない」、「笑顔を引き出す」ことを加えて、地域に根付いたケアを展開しようとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春祭り、盆踊り等、施設の駐車場を利用して地域の人との交流をしている。又施設の中の喫茶店を利用して地域との交流をしている。	地域の医療・介護の拠点としての環境を整えつつあり、地域との密着性は高い。芸能ボランティアや小・中学生の職場体験等の訪問者も多く、保育園や障害者施設とも交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症のことを聞かれた時は、出来るだけ分かりやすくアドバイスをしている。 職場体験の場として、中学生や高校生を受け入れ、介護の仕事を体験してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やその家族、市の職員、自治会長等と定期的に意見交換や現況報告をして、アドバイスや提案をいただき、サービス向上に活かしている。	年間の規定回数通りには開催されていないが、同一敷地内の他のホームや小規模多機能施設と共同開催をしており、出席者が多く、活発な話し合いや意見交換が行われている。	これまで、地域密着型サービスに知見を有する者の参加がなかった。適切なメンバーを選出して、会議のさらなる充実を図ってほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員2名を毎月受け入れや地域包括支援センターから事業者訪問があり、意見交換を行うなど、協力関係を築き取り組んでいる。また、日常的に市の高齢福祉課等に相談したり、アドバイスを受けたりして、連携を深めている。	運営推進会議には、市の担当課長や担当者の出席があり、毎月介護相談員の受け入れも行っている。市役所とは距離的な制約があるが、良好な関係は構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が重大な人権侵害であることを職員一人一人が認識し、身体拘束のないケアを実践している。玄関の鍵は日中開放している。	職員研修に力を入れており、特に「身体拘束」や「虐待」には、注意を払っている。居住空間が1階、2階、離れと3ヶ所に分散しているが、玄関は常に開放してある。	車いす利用者が多く、今後はさらに重度化が進むものと予想される。食事や休憩の時間帯に、車いす利用者が同じ体勢で放置されることのないよう、今後もホーム内の研修会等で周知していただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修会等に参加し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、具体的にそれを活用できるような支援を行っていないが、研修等に参加するなど、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に苑長、担当のケアマネ、施設の責任者等が十分な説明をして、理解し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にコミュニケーションをはかり、利用者や家族の不満や苦情に耳を傾けるように努めている。又運営推進会議や毎月の介護相談員の受入れにより、外部者へ意見や要望を言う機会を設け、それを運営に反映させている。	家族アンケートは、満足度の高い回答であった。唯一、「外出支援」に関しては厳しい評価とも受け取れるが、外出支援の家族への周知不足や利用者の高齢化・要介護度の進行等、管理者は原因を把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の責任者会議やケア会議等で、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、理事長が個別に面談を行い、職員の意見を直接聞く機会を設けている。	法人内の他事業所との人事異動はあるものの、比較的安定した雇用状態である。ベテランと若手職員との間の中堅職員層が薄く、「世代の不均衡」を法人、管理者ともに今後の解決すべき課題ととらえている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための支援を行っている。また、昇給や資格手当の支給等により、向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、その段階に応じて計画に基づいて、定期的に外部研修を受けている。また、施設内においても、新人研修やテーマ毎の勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入しており、協議会を通じて研修に参加したり、同業者との情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の今までの経緯を理解し要望を聞いたりして、安心して過ごして頂けるよう信頼関係を築き、努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族に今までの生活や経緯を聞き、施設での生活に不安を持っていたかのように努めている。苑便りやお手紙など家族とのコミュニケーションをはかっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が一番必要か考え、新たな問題点が見つければ、計画をたて実践するようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的に介護する人になるのではなく、利用者からみて信頼(安心)できる人として、暮らしを共にするパートナーとなれるよう努力している。。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	分からないことは家族に相談し、介護における苦労話などを傾聴し共感しながら、共に利用者を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り本人行きつけの店を利用したり、友人・知人に会いに来てもらうようお願いしたり、こちらから訪問したりして、これまでの人間関係を維持できるよう支援している。	地域規模が小さいため、外に出れば街のいたる所で友人や知人に会う機会がある。買い物に使うお店は、ほとんどが行きつけの馴染み店である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の助け合うところを静かに見守り、さりげなくフォローするよう心がけている。また、コミュニケーションがとれない利用者には、職員が仲に入り、孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた場合でも、時々には面会に行き、また、家族へ連絡して状況を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の話を聞くことはもちろん、以前担当していたケアマネ等からの情報をもとに、日々の生活の中で利用者の言動等を見ながら、一人ひとりの希望、意向を把握するよう努めている。	ケアの中でつかんだ利用者の思いや意向を介護計画に反映させるため、「意向シート」を作成する試みを始めた。	「意向シート」が本来目的を果たすためには、職員の協力が不可欠。管理者、ケアマネが中心となって、職員への周知徹底をお願いしたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中や今までの生活環境を把握して、馴染みの物を持ってきていただき、少しでも落ち着ける環境づくりを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、記録等目を通し職員と連携し、話し合いをしながら対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主任を中心に話し合い、家族や本人の意見も取り入れながら、より本人に適したケアができるよう、それぞれの意見やアイデアを出し合い、ケアプランに反映させている。	個別ケアの実践のため、利用者の思いや意向を取り入れた介護計画を作ろうとしている。「意向シート」が有効に活用されて、介護計画が臨時に見直された実例はまだ出ていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化に気をつけ、介護日誌、個人ケース、申し送りノートなどで、職員間の情報を共有、実践に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームから自宅へ、さらに自宅からショートステイやデイサービスへと連携したケースもあり、状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、警察、消防、学校等に協力をお願いし、支援してもらっている。また、地域のボランティアにも頻繁に協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、ほとんどの利用者が当法人の医師を「かかりつけ医」としており、週に数回の往診があり、適切な医療を提供している。その他の専門医への通院・治療等も医師や家族と相談、協力しながら支援している。	ホームと隣接する医療機関が経営母体であり、ほとんどの利用者がかかりつけ医に指名している。医師（法人代表）が毎日ホームに顔を出しており、利用者・家族にとっての大きな安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に気づいたら、施設の看護職員に連絡して相談し、隣接している医院と連携して指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携して情報交換し、利用者様が適切な治療が受けられるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、本人又は家族の意向を聞き、また、容態の変化に応じて、その都度重度化や終末期に向けた方針を話し合い、当事業所で出来ることをしっかりと見極め、医師や看護師と連携し、意向に沿った支援が行えるよう取り組んでいる。	早い時期から、終末期のケアの重要性を認識した取り組みを行っており、対応困難な医療行為がない限りホームでのケアを継続する方針を持っている。こまめに家族の意思の確認を行うなど、対応に関しての家族の信頼は厚い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、講習をうけたり、緊急時の対応などを看護職員に聞いて実践できるよう、努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回消防署職員の指導で、避難訓練を実施しており、災害時の避難方法等を確認している。また、地域の人にも災害時の協力をお願いしている。	夜間の職員配置が夜勤者1名だけと手薄なため、夜間災害時の対応に重点を置いた訓練を行っている。ホーム周辺の住民の協力も得られている。	夜間災害時の人的不足感是否めないため、夜間災害時の対応に重点を置いた訓練を強化し、組織的かつ迅速に対応できる仕組みの構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して、誇りやプライバシーを傷つけないよう、その人に合った言葉かけや対応を心がけ、また、個人情報等の取扱いにも細心の注意をはらっている。	食事介助、トイレ誘導、車いすによる移動等々、それぞれの支援場面で職員の適切な言葉かけがあり、利用者との信頼関係が見て取れた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が業務を優先して決めてしまわないよう心がけ、利用者の希望を聞き、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、利用者の意思を尊重してすごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に出かけたり、本人が望むおしゃれや身だしなみは、出来るだけ支援して楽しい生活が送れるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、管理栄養士が立てているが、食事の状況や好みを詳細に伝え、献立に活かしている。準備や、後片付けも出来る限り一緒に行うようにしている。	調理担当の職員が2名配置されており、利用者が主体的に調理に参加する場面は少ない。誕生日に特別デザートを出したり、近所の神社へ弁当を持って出かけるなど、日常にアクセントをつける取り組みもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導に基づき、一人一人にあった栄養摂取、水分確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を認識して、食後の歯磨き、入れ歯の洗浄やうがいなどの口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の表情や動作等から排泄の有無を察知し、さりげなく声かけをして、失敗がなくなるよう支援している。排泄パターンは記録等によって職員が把握し、出来る限り自然排泄できるよう支援している。	重度化に伴い、トイレ介助を必要とする利用者が増えてきている。しかし、尿意を失った利用者であっても、極力トイレで排泄することを基本に支援している。トイレが付帯している居室もあり、夜間対応に利便性が高い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便ができるよう、医師や看護師、栄養士と相談しながら、適度な運動、水分補給や献立に気をつけ、一人ひとりに合わせた便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴時間は決められているが、本人の希望や体調に応じて変更したり時間をずらしたりして柔軟に対応できるよう努めている。	車いす利用者の増加や要介護度の進行から、機械浴設備の必要性が生じ、別棟に機械浴槽が増設された。重度の利用者には2名介助が必要であるが、週に2回の入浴支援を受けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活・睡眠のパターンを把握し、休息、睡眠、起床の支援を行っている。日中のメリハリのある生活や適度な運動等によって、夜間の安眠を確保できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員に相談して、服薬の間違いに気をつけて最後まで飲んでいただけているよう、見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や嗜好等を把握して、その人がやりがいを感じ、喜びのある生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には戸外に出て、外気浴や散歩をしてもらうようにしている。また、普段行けないような所も、本人の希望を聞きながら定期的に出かけられるよう支援している。	好評であった家族アンケートの中では、外出支援がやや厳しい評価となった。高齢化や要介護度の進行、車いす利用者の増加等、外出支援の足かせとなる状況ではあるが、利用者の希望に合わせて可能な範囲の外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な方には、個人で管理してもらい、常時管理が困難な方にも、買物の支払いは自分でしてもらおうなど、一人ひとりの希望や能力に合わせて支援するよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通り、自由に電話したり手紙を出したりしてもらえるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様や職員が協力して作った作品、カレンダーを飾ったり、季節にあった花などを飾り、季節感を出している。	1階には食堂を兼ねた広いホール、2階には応接セットを配した交流コーナー、そして廊下伝いに4名が居住する離れがあり、利用者の居場所としては絶好のレイアウトである。各所に季節の花などをあしらっているが、華美に流れているわけではない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様とは隣同士になるよう、いすの配列を考え、新しい方が入所されたときは、配列を再検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みのものを持ってきていただくようお願いし、なるべく環境が家と変わらないように工夫している。	利用者の状態に合わせ、法人の運営する他の施設との住み替えが可能である。入居間もない利用者の居室を拝見したが、収納庫、洗面台が設置されており、整理整頓が行き届いていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室がよく分かるよう名札をつけたり、廊下には手すりをつけて、安全に暮らせるよう工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出支援をしているにもかかわらず、ご家族に伝わっておらず、発信不足であった。そのため、外出支援に対する満足度が他の項目に比べて低かった。	外出支援を行っていること(行事だけでなく日光浴や散歩等)をお便り等でご家族に伝える。	散歩や日光浴の様子など、行事だけでなく普段の様子も、お便りや家族との会話のなかで伝えるようにする。	3ヶ月
2	23	利用者の意向や希望を反映したケアプランの必要性。	利用者の意向や希望を普段の生活の中で聞き取り、それをケアプランに反映させる。	利用者から意向や希望を聞いたら、全員がその都度記録用紙に記載するようにし、それをケアプランに反映させ、達成できるよう努力する。	6ヶ月
3	35	災害対策	内部の災害対策を整備する。	日勤リーダー、管理者、施設長の責任の所在と判断を災害に備えて明確にする。メールでの連絡網を整備する。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。